

## 幼児教育学科

科目名: 教育方法論		担当教員 氏名: 北澤 晃							
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	2年次	前期	専門科目	講義	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		子どもがどのように、感じ、考え、行為し、意味をつくり続けていく存在かを実務経験に基づいた視点の提供をする。そのことによって、子どものよさや可能性を具体的に把握し、教育方法に結びつける実践力を養う。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
幼児期にふさわしい教育の方法について、「環境を通しての教育」と「遊びを通しての指導」について理解を深める。それらをコアにして、子どもたちが必要な体験を積み重ねていくようにするための保育形態や評価について関連付け考える。さらに、家庭や地域との連携の中で、それらの学びが小学校の学びへと発展的に結び付いていくことの重要性について理解する。					環境を通しての教育/遊びを通しての指導/保育形態/評価/小学校教育との連携/家庭・地域との連携				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.					
A 知識・理解力	環境を通しての教育、遊びを通しての指導という幼児期にふさわしい教育の方法の意義を理解することができる。								
C 論理的思考力	幼児期にふさわしい教育を推進するための保育形態や評価のあり方について考えることができる。								
D 問題解決力	現在の教育問題を踏まえ、小学校との連結や家庭・地域との連携のあり方について、具体的な事例を通して考えることができる。								
H コミュニケーション力	カウンセリングマインドの重要性を理解し、相手を尊重し、その人の心に寄り添う態度を備えたコミュニケーションを図ろうとする態度を持つことができる。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: アクティブ・ラーニングの一環として、グループ討議とその成果物を重視する。具体的には、各回の授業を振り返りまとめた成果物(ポートフォリオ)を中心に評価する。その評価にグループ討議での発表状況を加え評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    デスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各回の学びを整理・記録したポートフォリオファイルを作成し、それをもとに考え、記述する小テストを適宜実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 最終回に授業のまとめとして総括しコメントする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
① 幼児期にふさわしい教育の方法(コア)について理解する。				①の復習とポートフォリオ作成/相互行為分析(ビデオ)			90		
② 幼児の主体的な生活を基盤とする保育のあり方について理解する。				②の復習とポートフォリオ作成/ナラティブの復習			90		
③ 遊びのなかの学びをはぐくむ保育について理解する。				③の復習とポートフォリオ作成/相互行為分析(ビデオ)			90		
④ 方法としてのさまざまな保育形態(含む:教育機器)について考える。				④の復習とポートフォリオ作成/相互行為分析(記録)			90		
⑤ 保育におけるのぞましい評価のあり方について考える。				⑤の復習とポートフォリオ作成/相互行為分析(記録)			90		
⑥ 幼児期の教育と小学校教育の連携について考える。				⑥の復習とポートフォリオ作成/相互行為分析(考察)			90		
⑦ 家庭や地域と連携した保育のあり方について考える。				⑦の復習とポートフォリオ作成/相互行為分析(考察)			90		
⑧ 保育におけるカウンセリングマインドについて考える。				⑧の復習とポートフォリオ作成/相互行為分析(まとめ)			90		
使用テキスト: 小田豊・青井倫子編著『幼児教育の方法』北大路書房				その他参考文献など: 島田教明・辻井正『0歳からの教育』オクターブ					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布資料はファイル等して保管し、授業時に持参すること。事前・事後学習における成果物(ポートフォリオ)は、授業内容をコアにして発展的に他の課題に繋いでいくことが重要です。									